

第132号 令和7年6月30日

梵珠だより

発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢1-1
TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.bonjyu-furesen.info/> メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

● 梵珠の森・春のふれあいデー

4月20日(土)・21日(日)



● 新緑トレッキング～ブナ峠を経て梵珠山へ～

5月11日(日)



● 梵珠大滝トレッキング

～梵珠山から大滝を越え笹山へ～ 6月1日(日)



● 梵珠山撮影登山

5月3日(土)



● 梵珠山の写真展

5月17日(土)～6月22日(日)



● 初夏の花旅 in 高森山

6月22日(日)



※雨天中止となりました

● イチモンジチョウ タテハチョウ科

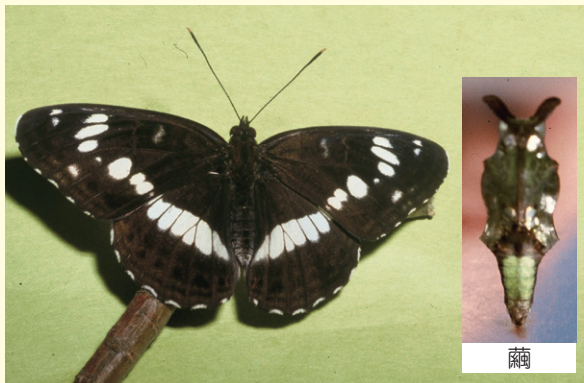
鳴海 富美子（津軽昆虫同好会）

黒字に鮮やかな一文字模様を持つタテハチョウの仲間で、前翅から後翅を通り、反対側の前肢まで並んでいる白斑が一直線に見えることから名付けられたようだが、私には一文字と言うよりVの字に見える。北海道から九州まで分布する普通種で、川の近くの林や草原に生息していて、草花や低木の上等を活発に飛びなかなか静止しない。食草はスイカズラ科のタニウツギ等で幼虫で越冬する。幼虫の色彩は濃緑色で、全体に白い小さな点が見られ、背中には棘状の突起がある。タテハチョウ科の幼虫は毛虫型であるが毒は持っていない。また刺されることもない。

林の中などを歩いていると、背中に白い繭をたくさん付けたイチモンジチョウの幼虫を見かけることがある。これは主にコマユバチという寄生バチがチョウの幼虫に産卵管を刺して卵を産みつけたもので、チョウの体から

養分を取って成長し、やがて皮膚を食い破って外へと体を乗り出して繭を作る。ハチの幼虫はその中で蛹になる。やがて成虫となった寄生バチが出てくるとチョウの幼虫は蛹になれないまま死んでしまう。繭を付けた幼虫は生きたまま餌となるのである。白い繭をたくさん付けた幼虫を見かけるたびにやがて訪れる運命を思うと胸が痛む。寄生バチに寄生された昆虫はよく見られ、昆虫の数を調整する役割を果たしていると言われている。

蛹は2cm位でとてもユニークな形態をしている。頭に1対の角があり、目の位置は銀色に光っていて、背中には大きな瘤がある。色彩は黄緑色で黒褐色と銀白色を装う。この特異な形態と色彩はかえって目立ってしまうと思われるのだが。いづれにしても幼虫の数に比べ蛹の数はかなり少なくなり、さらに成虫にまでなれるのは極めて少ないのである。



イチモンジチョウ



幼虫

生物暦（2024年）										9月		🌤️🌧️：天気		植物		野鳥	動物	昆虫	は虫類・両生類											
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
観察できたもの	ニホンカモシカ・アオイトトンボ	オオカマキリ・ミンミンゼミ	ホツツジ・ミンミンゼミ	オニヤンマ	アキノギンリョウソウ・クチヘニタケ	ウスバシロチョウ・ノコギリクワガタ	エナガ・オクトリカブト	モモンガ・クマタカ	ゲンノシヨウコ・カラスアゲハ	キクガシラコウモリ・キジバト	オオアキノキリンソウ・キジバト	アオモリアザミ・ノシメトンボ	シロバナツリフネソウ・クマタカ	メスグロヒヨウモン・オオアカゲラ	アナタマ・トラツグミ・チゴハヤブサ	ヒメモチ・ツチアケビ・クマタカ	キジバト・キセキレイ	オニヤンマ・シロオニタケ	ニホンリス	ノシメトンボ・モクスガニ	キジバト	ニホンザル・カエントケ	クマタカ・ノコンギク	オオカマキリ・アカゲラ	キジバト	サラシナシヨウマ・ヤマガラ	キクガシラコウモリ・カナヘビ	カワガラス・ツキノワグマ	ヤマカガシ・コウモリタケ	ヒメネズミ
	天	☀️	☔️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☔️	☀️	☀️	☔️	☀️	☔️	☔️	☀️	☔️	☔️	☔️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️